

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動支援】

都跡小学校野外活動支援 活動報告書

国語教育専修 2 回生 飯田 朱音

1. **実施日** 2023 年 9 月 28 日 (木)
2. **場所** 奈良市青少年野外活動センター (柳生)
3. **参加者** 国語教育専修 2 回生 飯田 朱音
国語教育専修 2 回生 吉岡優来
数学教育専修 1 回生 小田 彪雅
英語教育専修 1 回生 田中天央衣

4. 活動の概要

奈良市青少年野外活動センターにおいて、都跡小学校の野外活動の支援を行った。オリエンテーションではポイント立ちを行い、また野外炊飯やキャンプファイヤーなどを 1 日かけての支援であった。ポイントたちでは、ポイントごとで班を把握し、全班のおおよその位置情報を学生間で共有を行うなど工夫した。野外炊飯では、かまどと中に分かれ、役割を分担してそれぞれの班の支援を行った。キャンプファイヤーでは、子どもたちのゲームを一緒に楽しみ、盛り上げた。途中雨が降り出し、火がつかなくなることもあったが、ファイヤーキーパーが灯油をかけるなどして工夫し、キャンプファイヤーを継続することができた。

5. 参加学生の学び・感想

私が今回の野外活動支援で学んだことは、児童と教員の連携力である。子どもたちが先生の話すタイミングになると、児童達同士で声を掛け合い、先生方のお話を一度で聞きしっかりと行動していた。また、先生方が児童達と共に楽しんでいらっしゃる姿を見た。これらの姿から、日常からの教員と児童の関係性による協力体制が確立されており、今回の野外活動にも活かされているのではないかと感じた。

そうした日常的な相互の関係性があるため、学校以外の場でも連携が崩れることなく問題なく協働して野外活動支援を終えることができたと考える。

また今までの野外活動支援に比べ、飯盒への留意点を自分の中に整理して行動できたため、先生方のお声がけを待つことなく自主的に行動し、支援できたと感じる野外活動支援であった。

(国語教育専修 2 回生 飯田朱音)

今回の野外活動支援は、1 日を通しての活動であった。活動センター内や近隣の歩くオリエンテーション、野外炊飯、キャンプファイヤーだけでなく、シーツの準備などの活動もあった。その中で、児童達は、分からないことや困っていることがあれば、自分達自身で解決しようとしていたり、手助けしようとしていた。そのから、児童は野外活動をという特別な活動を通して、お互いに刺激を与えあいながら、自立しようとしていくのであると学んだ。

(国語教育専修 2 回生 吉岡優来)

今回の野外活動支援で学んだことは、先生の責任の重大さだ。私は、今回の野外活動支援が、私にとって初めての最初から1日目の最後まで支援する野外活動支援だったが、1日を通して、児童達は、私たち学生4人を「先生」と呼んで、頼ってくれた。それが嬉しくもあり、また責任を感じた。

今回は大変貴重な体験ができた野外活動支援だった。この経験を糧に、これからの野外活動支援に活かしたいと思う。

(数学教育専修 1回生 小田彪雅)

今回は私にとって5回目の野外活動支援であった。

今までの反省点を生かした活動ができたと思う。生徒についての現状把握や先生や学生との連携など、注意して問題なく活動できたと思う。野外炊飯では、調理を担当した。児童達は「これは危ない」とお互いに声掛けをしていた。調理の場面だけではなく、様々な場面で生徒たち同士の声掛けが盛んであった。これは、自分達の周りの状況を把握し、判断できているからこそ出来る行動だと思う。児童達から私たち学生も必要になってくるその力を改めて学ぶことが出来た。

(英語教育専修 1回生 田中天央衣)